



藤江 久子 議員

## 緩和ケア病棟と 関連機関との連携

### 久美愛厚生病院緩和ケア病棟の創設について

【問】今年5月1日より、久美愛病院に緩和ケア病棟が23床創設される。この緩和ケア病棟は、市民の永年の願いが実現されたもの。

以前は「看取り」のイメージが強かったが、最近ではWHO（世界保健機構）が「緩和ケアとは、命を脅かす疾患に起因した諸問題に直面している患者と家族を（中略）・苦しみから解放することを目標とする」として、「がんなどを告知された時から始まる心の痛みにも対応する」とし



緩和ケア病棟を配備した新久美愛病院

ている。この緩和ケアセンター医長に進藤喜予先生がご就任される。先生は以前に大阪の病院で緩和ケア病棟部長をされており経験も豊富。「どんな苦しい時でも、医療が患者と家族に寄り添ってくれる」そういった期待も膨らむ。飛騨に初めての緩和ケア病棟と関連機関

との連携・市民への周知などについて、市の考え方は。  
【答】関連機関と連携をしつつ、医療相談窓口等においても周知していきたい。

### 男女共同参画はなぜ必要か

【問】結婚しない男女が増えていることが少子化につながっている。ではなぜ結婚しないのか。理由は、一人の方が気が楽だから・特に結婚してからの生活に魅力を感じない女性が増えていることが問題だと考える。家事・子育て・介護は女性がやって当たり前の概念を変えることが必要であり、そのために男女共同参画の施策は必須と思うが、市の考えは？  
【答】男女が意欲に応じて活躍できる社会であるべきと考えている。今後は市民の皆さんとともに地道に施策を遂行していきたい。



谷澤 政司 議員

## 火葬場建設 待たれる市長の決断!!

### 火葬場建設

【問】火葬場建設地を、市長任期中に決定する決意は。

【答】候補地の決定まではしない。

【問】全体計画のコンセプトは。

【答】久々野火葬場は利用。国府町・上宝町・奥飛騨温泉郷は引き続き他市の施設を利用。コンセプトは場所と並行して考える。



老朽化の進む高山火葬場

### 市長のまちづくりに対する考え

【問】市街地の都市計画・土地利用は、機をとらえてすばやく対応しなければ、市の将来に大きく影響及ぼす。

【答】市街地の広面積土地は、市が有効に活用できる可能性もある。所有者から申し出があれば検討が必要。

【問】久美愛病院跡地所有者から市へ要望書が出た。その対応は。

【答】2月に地権者から提出され、地元町内会からも要望がある。現在どのような利活用が可能か検討を始めた。民間の利活用も含めて地域の活性化につながる手段を考えたい。

### 次代を担う子供たちの 学校教育

【問】昨年の震災で、宮城県石巻市大川小学校児童の7割が犠牲になり、石巻市教委も過失を認めた。高山の子どもたちの各種災害時における危機管理体制は。

【答】教師と子どもが一体で校区を見て回り、自ら情報収集や危険箇所の把握をしている。避難経路等を含め災害想定を見直し、命を守る危機管理体制の構築を図っていきたい。

【問】4月より国の学習指導要領が変わるが、伝統文化等を学ぶ機会の確保は。

【答】選択教科の時間はなくなるが、三味線や太鼓など伝統文化を学ぶことは重要。郷土学習を推進し、地域の外部講師とふれあいながらその生き方や地域文化を学ぶなかで、地域への愛着と誇りが持てる子どもに育てたい。